

D 体験型イベントや里山ゾーンの活用 地域・社会貢献活動

「21世紀型の里山キャンパス」の創出へ 角間里山本部の設立

里山保全と活用を促進させるために設立。「管理」「教育・研究」「連携」の3部門を設け、連携しながら教育・研究利用や地域連携事業を進めています。



「学長と歩こう! 角間の里」企画

専門学域を紹介する参加型イベント 「2010年度医学展」 「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」

医学展では病院のように内科やリハビリなどを体験する「模擬病院」が登場。理工学域のオープンキャンパス「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」では、2000名を超える小学生と保護者などが参加し、計47テーマの実験・実演・展示を楽しみました。



「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」の実験風景

毎週水曜日は地域・社会貢献活動 附属特別支援学校高等部クリーン隊 によるエコ・クリーン活動

地域でゴミ拾いや草花の世話などの美化活動を実施。発展途上国の子供たちにポリオワクチンを送る「エコキャップ活動」にも参加しています。

環境保全について理解を深めた3日間 わく・ワーク(中学生職場体験受入事業)

金沢市内の中学2年生4名が、環境保全センターの実験廃液確認収集業務などを体験しました。



ペットボトルキャップの回収

まちなかでのゴミ拾い

地藏堂のプランターへの水やり

ユネスコスクールの活動支援 初等中等教育におけるESDの推進

教員養成カリキュラムのESDの要素の分析や、ユネスコスクール・ユネスコスクール候補校の経験交流会、先進地域視察などを行いました。

E 学生も教職員もOBも生協も、ともにサポート サプライチェーン&学生活動

角間キャンパスの環境保全を支える 金沢大学キャンパス環境整備の会

金沢大学のOBによるボランティア組織。草刈りや植樹、道路清掃を行います。

ボランティアを通じて、心のケアを手伝う 能登見守り・寄り添い隊「灯」／聞き書きサークル「星ことば」

「灯」は能登半島地震の被災地支援を機に発足。足湯活動を通じた見守り・寄り添い支援です。「星ことば」は看護学科の学生が「患者さんと向き合い寄り添おうこと」をめざして設立。一人ひとりの人生の語りを「生きた証」として文字に残していく活動です。

竹林を手入れし、環境保全へ 里山サークル「Racoon」(ラクーン)

竹チップにして里山の土に還元したり、掘ったタケノコを大学の生協食堂に提供したり、できる限り竹林の有効利用を行っています。



タケノコ掘りをするメンバー

金大生限定! 毎年恒例の人気市 金沢大学学生リユース市

卒業生が新入生のために生活用品を格安で提供。再利用してもらうことで、経費節減と環境保全につながることをめざしています。

金沢大学環境方針

〔基本理念〕

金沢大学は、総合大学のもつ多様性を個性的に発揮することで、21世紀の時代を担う有為な人材の育成と知の創成に努めることとしている。地域における知の拠点である本学が、このような目的をもって教育・研究・診療・社会貢献等の活動を推進するために、将来の世代と地球に対する責任を自覚し、人間と自然との調和・共生を柱とした環境方針を掲げるものとする。

〔基本方針〕

- 1 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境問題を意識し、環境保全に貢献する人材の育成と研究の推進に努める。
- 2 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を順守する。
- 3 金沢大学は、本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・分析し、化学物質の安全管理、廃棄物の処理、資源・エネルギーの使用量削減や再利用・再資源化等に積極的に取り組むことにより、環境負荷の低減に努める。
- 4 金沢大学は、環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発と普及に努める。
- 5 金沢大学は、以上の環境方針を実現するための総合的なマネジメントシステムを構築し、継続的に目的・目標を定め、全ての大学構成員が協力して、その達成に努める。

金沢大学長

中村信一

〔環境マネジメントシステム〕

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。



金沢大学エコアクション2011
金沢大学環境報告書2011ダイジェスト
2011年9月発行

報告対象期間:2010年度(2010年4月~2011年3月)
発行:金沢大学
お問合せ先:金沢大学 施設管理部 施設環境管理室
〒920-1192 金沢市角間町
TEL.076-264-5146 FAX.076-234-4033
e-mail kankyo@adm.kanazawa-u.ac.jp

「金沢大学環境報告書2011」の本編は金沢大学ホームページでも公開しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kannkyouka/kankyo/2011.pdf

金沢大学 エコアクション 2011

金沢大学環境報告書2011ダイジェスト



金大が地球と奏でるハーモニー

大切な地球と暮らしを守るため、
キャンパス、地域、世界をフィールドに、
さまざまな活動を展開しています。
学生と教職員がともに取り組む、
金沢大学の熱いチャレンジを紹介します。



A 世界が求める環境テーマが続々登場 環境教育と研究

グリーンイノベーションを推進する研究拠点
サステナブルエネルギー研究センター(RSET)

理工研究域のエネルギー生産技術開発における研究拠点。風力や太陽光などの再生可能エネルギーや、未利用のバイオマス、廃棄物や廃棄エネルギーなど基に、北陸地域における「地産地消型」エネルギーの生産をめざします。



サステナブルエネルギー研究センターのバイオマス利用部門では、稲わらやもみ殻といった未利用系バイオマスの利用技術の開発などに取り組む



金沢からアジア・アフリカへ
環境保健の国境を越えた展開

ウイルス感染症制御学分野の研究活動を世界に拡大。ケニアとベトナムではB型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスなどの感染ルートについての疫学調査を実施。留学生が帰国後、自国の保健領域に貢献できるよう研究や技術の教育、ネットワーク構築にも取り組んでいます。

高齢化・過疎化が進む能登地方へ
能登をフィールドとした医療

地域医療の格差が問題となる中、医薬保健研究域では奥能登地方の精神科医療の現状を調査。医療機関や訪問看護ステーションとのネットワークでケアシステム構築を進めています。



アンコール遺跡の修復作業について話を聞く参加学生

遺跡の維持管理の労苦を実感
アンコール遺跡整備公団における
学生インターンシップ

12名の学生・院生が参加。2週間にわたり、遺跡の保存・修復、自然環境の整備に関する業務を実施。大気汚染についてどう感じているか、現地の人へのインタビューも担当しました。

環境への高い意識と地道な取り組み

環境の現場に学ぶ
—共通教育における環境教育実践—

環境に配慮しながら業務に取り組む地域の企業を訪問。産業廃棄物のリサイクル技術や、廃棄食材の活用による食品加工、農業生産システムの開発などを学びました。



廃棄物リサイクル工場での授業風景

B 活動・講演・情報紙を通じて深めよう 環境コミュニケーション

6月は恒例の環境月間キャンペーン
「金沢大学エコアクション入門」と「金沢大学環境報告書検定」

学内コミュニケーションサイト「アカンサスポータル」に「金沢大学環境報告書2009」とダイジェスト版のデータを掲載。「金沢大学環境報告書検定」には126名が挑戦し、満点を獲得した16名のうち4名に「金沢大学環境報告書検定優秀賞」が贈られました。

学生、教職員が一緒になって考える
環境学習会 —企業の環境への取り組みを学ぶ—

環境保全センターとSETSUYAKU(節約)しまいかプロジェクト主催の「大学マネジメント支援」省エネ対策学習会を開催。また、環境委員会・環境調査チーム・環境保全センター主催の「実験・研究で使用する化学物質の取り扱い学習会」を開催しました。



学生と教職員が参加した苗植え式

アーティスト・日比野克彦氏が呼びかける
「明後日朝顔プロジェクト2010金沢
in金沢大学中央図書館」

2009年に引き続き、「明後日朝顔プロジェクト」の苗植え式を開催。宇宙飛行士・山崎直子氏と宇宙を旅したアサガオの種「NAOKO☆宇宙アサガオ」も加わりました。



記録的な猛暑となった2010年。中央図書館の壁面にできたグリーンカーテン

角間キャンパスの自然科学系図書館に
環境学コレクションの整備を通じた「環境学」教育支援

和書と英語の基本書やDVDなど、800点以上のコレクションです。授業との連携や、地域の子どもや産業界との連携も予定しています。

130余りのサークルを対象に実施
「サークルリーダー研修会」での環境活動に関する講習

環境委員会が「環境報告書2010」ダイジェスト版を配布し、金沢大学の環境への取り組みを紹介。サークル活動においても環境に意識した行動が大切であることを呼びかけました。



日本最古の草木塔

草木塔の精神を学ぶ
「草木塔セミナー」

草木塔とは「草木塔」「草木供養塔」「山川草木悉皆成仏」などと碑文が刻まれた石碑。山形大学から講師を招いて、「草木塔のこころを求めて」と題した講演では、歴史的背景や土着信仰、自然への感謝の念を紹介されました。

C 環境負荷の少ないエコキャンパスへ 環境への配慮

適正運用と安全管理をめざして
学内環境諸規定の順次整備

「エネルギー管理細則」「化学物質の管理に関する細則」「廃棄物管理に関する細則」を整備。ルール説明会を通し周知をはかっています。

学生向けに「ごみ分別表」を作成
廃棄物の適正処理と再資源化の推進

廃棄物発生量は前年に比べて約2%増加。OA機器のリサイクル率が低かったため、改善が必要です。廃棄物の分類表を作るとともに、学生向けにパンフレットを作成し、広報活動を行っています。

猛暑の影響で増加
資源使用量の削減と再利用

水使用量は猛暑の影響で前年度に比べて約7%増加。今後とも節水に努めていきます。

天候や設備整備により増加
エネルギー使用量の削減

適正冷暖房や節電に関する呼びかけ、「はよう帰りまっし日」「節約しまいかプロジェクト」「エネルギー見える化システムの構築」などを継続。猛暑・厳冬の影響と施設の改修・改修、設備の更新により、エネルギーの使用量は前年より7.4%増加しました。



多くの学生と教職員が参加した植樹活動

通勤通学時の排出量の抑制へ
温室効果ガスの排出量の削減

運輸を除くCO₂排出量は2009年に比べて約20%削減。通勤通学にともなう排出量が多いと試算されており、抑制対策として「100円バス」の利用促進を継続しました。

ISO 14001認証の更新が承認
金沢大学 技術支援センターの環境
マネジメントシステム(EMS)適用状況

環境方針を変更。①固形廃棄物減量化 ②液体廃棄物減量化 ③電力節約 ④環境教育推進 ⑤環境改善研究支援に対して目的・目標を定め、活動を行います。

生物多様性条約
第10回締約国会議
(COP10)

2010年10月開催の「COP10」では、金沢大学里山里海プロジェクトが中心になり、能登の里山里海の生物多様性と地域活性化に関する展示ブースを設置。石川県で開催された「石川里山エクスカーション」などでは運営支援を行いました。

エネルギー・資源や物質の流れ
【マテリアル・フロー】

総供給量(Input)
電力: 5,648万kWh
ガス: 401万m³
水: 49万m³
重油: 900KL
複写機用紙: 150t

金沢大学
KANAZAWA

リサイクル紙類: 237t
再利用物資: 120t
温室効果ガス吸収: 594t-CO₂

排出量(Output)
温室効果ガス: 33kt-CO₂
一般廃棄物: 1,045t
産業廃棄物: 780t
排水: 47万m³



省エネ活動を推進するマーク

これって、どう捨てるの? 金沢大学版 ごみの分け方・出し方〈学生用〉

●注意事項を守り、きちんと分別して捨てましょう。 ●ごみ箱はいつも清潔にしておきましょう。 ●指定されたごみ箱以外にごみを捨てると、不法投棄として罰せられます。 ●大学で処理する廃棄物は、大学での活動で発生したものです。家庭などのごみ類やごみ類になるものは持ち込まないでください。

廃棄物

可燃ごみ

生ごみ、紙くず、布くず、シール台紙、裏カーボン紙、写真、窓付き封筒など



紙くず、布くずは化学物質などが付着していないこと。 ●可燃ごみ箱へ。

ペットボトル(飲食用)

飲料の入っていたペットボトル



キャップは外す。リサイクルマーク等で確認する。できたら、ひと洗いする。 ●ペットボトル用ごみ箱へ。 ●金属キャップは空き缶用ごみ箱へ、プラキャップはプラごみ箱へ。

容器包装プラスチック

カップめん等の容器、ポリ袋、プラスチック容器、ラップ類、ボトル類、ラベル類など



実験で使用したものは除く。リサイクルマーク等で確認する。カップめん等の残り汁は生協等にある指定の容器へ、汚ればひと洗いするかティッシュペーパー等でひと拭きする。(ティッシュペーパーは可燃ごみ箱へ)。 ●プラごみ箱へ。

空きビン(飲食用)

飲食物の入っていたビン



キャップは外す。できたら、ひと洗いする。 ●空きビン用ごみ箱へ。 ●金属キャップは空き缶用ごみ箱へ、プラキャップはプラごみ箱へ。

空き缶(飲食用)

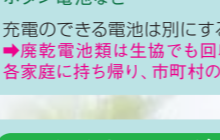
飲食物の入っていた缶



キャップは外す。リサイクルマーク等で確認する。できたら、ひと洗いする。 ●空き缶用ごみ箱へ。 ●金属キャップは空き缶用ごみ箱へ、プラキャップはプラごみ箱へ。

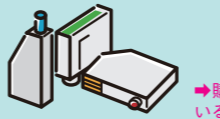
廃乾電池

マンガン電池、アルカリ電池、ボタン電池など



充電のできる電池は別にする。 ●廃乾電池類は生協でも回収している。できるだけ各家庭に持ち帰り、市町村の指定に則り搬出する。 ●購入店や生協で回収しているのを利用する。

インクカートリッジ(プリンター用)



廃紙類

わら半紙、雑誌、厚紙、書籍(ビニール等は外す)、コピー用紙など

できるだけ各自家庭に持ち帰り、市町村の指定に則り搬出する。または地区の学生係に相談する。ホッチキス等は外しておく。 ●汚れのひどいものは可燃ごみ箱へ。

燃やさないごみ(埋め立てごみ)

実験で使用したもの、資源ごみ、燃やすごみ、粗大ごみ以外のもの ●燃やさないごみ箱(埋め立てごみ)へ。

下水道排水

生活系排水

手の洗浄、食器などの洗浄、トイレ



洗剤などは少なめに使う。食べ物の固形の食べ残しは別途貯めて、燃えるゴミにする。食べ残しのうち、油分を含むものは紙等に吸わせて燃えるごみにするを工夫する。 ●手洗い場、リフレッシュルーム等の流し、食堂、トイレ

実験系排水

実験器具の洗浄



●実験室の流しへ。原則として3次洗浄水までは廃液として回収する。生活系排水(特に食べ残しの液体等)は流さない。



金沢大学の環境活動って?